



上野総合市民病院だより

◆市民病院での細胞培養検査について

臨床検査課では、検体検査や生理検査などの検査を実施しています。その中で、細菌培養検査について紹介します。

感染症を引き起こす原因には、細菌・真菌（カビ）などの微生物やウイルスなどがあり、細菌培養検査では細菌や真菌による感染症を調べています。検査の目的は、感染症の原因と考えられる菌を特定し、治療に適した薬が何であるかを調べることです。

検査では、まず感染症の疑いがある患者さんから検体（喀痰、尿、便、膿、血液など）を採取します。通常、検体に含まれる細菌はとて少ないので、そのままでは感染症の原因を特定することは困難です。そのため、採取した検体を培地（菌が増殖するのに必要な成分を含んだ寒天など）に塗り、菌の発育に適した環境で1日から数日かけて菌を培養します。すると、菌が増殖して培地上にコロニー（目に見える塊）ができます。そして、発育したコロニー

の形や色を観察し、さまざまな検査を行うことで菌を特定していきます。検査結果は、数日で行うことができますが、菌の種類によっては数週間かかることもあります。

当院では、少しでも早く検査結果を出して患者さんの治療に役立てられるよう、スタッフが連携して検査を実施しています。

（臨床検査課 宮本 都和）



明日に向かって～差別をなくしていくために～

こどもたちが主役のまちへ ―契約監理課―

「こどもの権利」と聞いて、あなたは何を思い浮かべますか？権利は誰にも身近なものであり、未来を担うこどもたちにとっても重要です。私はこどもを持つ親として、こどもの権利について考える機会が増えました。ニュースでこどもへの虐待事件が報道されるたびに胸が締めつけられます。小さな命が助けを求めても届かない現実に「どうしてこんなことが起こるのだろう」と考えずにはられません。こどもの権利を守るには、家庭だけでなく、社会全体で支えていくことが大切だと強く感じています。

今年3月に策定した「伊賀市こども計画」では、改めてこどもの権利について深く考えさせられました。この計画では、「みんなが主役!! “ともに成長し、明るく・楽しく・笑顔 そして自信にみちあふれる”伊賀市」を基本理念としています。こどもたちが安心して遊べる場所があること、健やかに学べること、

必要な医療を受けられること、そして何より自分の意見を大切にしてもらえること、これらすべてが、こどもの権利を守るための重要な要素です。

しかし、現実にはいじめや貧困、障がい、国籍などを理由にした差別によって苦しむこどもたちがいます。計画では、問題を家庭や学校だけに押し付けず、地域や行政が力を合わせ、社会全体で支える具体的な施策が示されています。

こどもの人権を守るために私たち大人にできることは、こどもの声を聴き、思いを尊重すること。そして、「あなたは大切な存在だよ」と伝えることだと思います。こどもたちが「みんなが主役」と感じられることは、誰もが住みやすい社会につながるはずで、親として、地域の一員として、私もできることから行動していきます。小さな一歩が、こどもたちの未来を明るくすると信じています。

■ご意見などは人権政策課 ☎ 22-9683 FAX 22-9641 ✉ jinken-danjo@city.iga.lg.jp へ



伊賀の歴史余話 44

柘植駅のランプ小屋と駅前の発展

柘植町にあるJR柘植駅は、明治23（1890）年に開業した県内最古の鉄道駅です。明治21（1888）年に四日市市で設立された関西鉄道株式会社が、草津・柘植間に鉄道を敷設したことによってできた駅で、駅舎は開業前年の2月に竣工しました。

電気照明が普及していなかった当時、駅のホームや待合室にはランプが揺れ、レトロな雰囲気が漂っていたそうです。その後、駅舎は増改築が繰り返されますが、現在も駅舎西側に開業当時の建物である危険品庫（油庫）が残されています。危険品庫は、ランプやその燃料などを保管・収納するために造られたもので「ランプ小屋」とも呼ばれています。

ランプ小屋には、耐火を目的とした赤レンガが使用され、壁の表面に鮮やかな図柄が現れる「フランス積み」と呼ばれる技法が用いられています。

蒸気機関車が吐く煙で火事が起こるなどの風説があり、柘植駅をはじめ、この頃の駅や線路は人里から離れた郊外に設置されました。

しかし、鉄道の重要性が増すと、駅周辺に変化が

見られるようになります。柘植駅でも乗降客を相手に草鞋や駄菓子（駄菓子）を販売するものが現れ、数軒の旅館が営業を始めます。さらには貨物を扱う運送店が軒を連ね、駅前には活況を呈するようになりました。

ランプ小屋は、閑散とした場所が駅の設置によって新たなにぎわいが生まれ、町場へと発展する近代化の様子を見てきた、貴重な鉄道遺産です。

文化財課歴史資料係 ☎/FAX 41-2271



▲柘植駅に残るランプ小屋



「イガプロ」とは、「イガ」と「プロダクト（製品）」、「プロフェッショナル（専門家）」などさまざまな「プロ」を掛け合わせた造語です。



旭ダイヤモンド工業株式会社は、地球上で最も硬い「ダイヤモンド」に着目し、半導体や車、建設など、ものづくりの工程に必要なダイヤモンド工具を製造・販売しています。当社は、ダイヤモンド工具の分野で国内シェアナンバー1を誇り、取引先は世界各国に拡大していて、製造販売拠点を世界各地10カ所以上に構えるグローバル企業です。

1937年の創業以来、戦後の高度成長期、モータリゼーション*、IT革命、デジタル社会の進展など、変化する日本の経済をダイヤモンド工具を通じて支えてきました。

国内外にある製造拠点の中でも三重工場は最も製造品目が多く、すべてが押し製品と言えますが、特に、皆さんの生活に欠かせないスマートフォンや家電などに使用する半導体製造用の製品が推しの一品です。

◆社員の声

就活をするにあたり、地元の友人などから旭ダイアの魅力を聞いたことがきっかけとなり、福利厚生（ふりこう）の良さと温かな社風に惹かれ入社しました。

入社してからは、社員旅行や他部署の人たちと関わるイベントが多数あり、工場全体の雰囲気が良く楽しく働いています。

現在総務課に所属していて、これから就職を考えている地元の人たちにも旭ダイアの魅力を広めていきたいと考えています。（2023年入社）



*自動車（じどうしゃ）が社会に広く普及し、生活必需品化する現象のこと

◆会社概要

【所在地】伊賀市ゆめが丘7丁目8-1

【設立】1937年（三重工場1943年）

【従業員】

単独999名 三重工場354名

【事業概要】

ダイヤモンド工具製造販売

【連絡先】☎ 26-7321

<https://www.asahidia.co.jp/>



問 商工労働課 企業誘致推進室 ☎ 22-9727 FAX 22-9695